

となった軍関係の建物から探そうということになりました。戸山の近衛騎兵連隊の敷地建物全部が宮内省の管理下にあるのは21年3月限りということになり、下村寿一院長らが各方面と折衝にあたり、学校内でも全職員に発表にされたのは3月10日頃でした。どこから横槍が出るか分からず、移管したということを一日も早く事実とする必要がありました。こうしたわけで、3月13日、院長以下のすばやい決断により、初等科と中等科は音羽から、高等科と研究科は目白から、降りしきる雪のなか椅子や本を手に、私たち生徒は戸山の地へ行進することとなったのです。

## 6. 戸山校舎での中・高生活

西尾氏◇明治通りから門を入ると、桜並木が続いていました。兵舎だった堅牢な建物が左側に見えてきて、その中に中等科、高等科それぞれに教室が割り当てられました。兵舎の中は長く一直線に続く廊下があり、初めのうちはガラスもまだ入らず、兵隊の銃をたてかける銃架が廊下との境目になっていました。冬はとても寒く、オーバーを着たまま授業を受けました。晴れた日は、皆で椅子を外にもって出て、日の当たる個所を探してひと固まりになり、肩を寄せ合って授業を受けたこともありました。新しい中学生生活は、こういう環境に適應する事から始まりました。セーラー服も上級生から譲っていただきました。ともかく、再会した友と本式のクラス編成になった喜びは大きく、やがて笑顔が教室に並びました。少しずつ青春らしい中学生生活が始まり、頭を学業に戻す大切な時間が来しました。茶道や華道・書道などの古典文化に関する部活動も始まりました。

昭和21年から22年にかけて、戦後の学校制度に大きな改革が行われました。学習院では、戦後初の学習院長として安倍能成氏が就任し、22年の教育基本法の改正と学校教育法の公布に伴い、6・3・3・4制が導入されました。学習院はこの年に文部省所轄の学校法人となり、私達の学んでいる女子学習院の名称が、学習院女子中等科・高等科と改められました。戸山の学校も、運動場が整備され、野菜畑だった校舎の側面の土地はテニスコートに、教室の仕切りもガラス戸やガラス窓が入り、落ち着いて勉強のできる校舎に次々と整備されていきました。

倉本氏◇私達は、そのような中で高等科に進学し、激動の戦前・戦中・戦後の時代を経て変革した社会とそれに伴う生活の転換という事実を冷静に理解できるようになっていました。級友たちの多くも、不思議に明るく、ある種の達観を以てこれを取り越えようとしていました。授業は教科数が増え内容も充実し、女子学習院時代からの伝統的な行事「球技会」「欧語会」も復活しました。

私達の世代は、感受性が豊かな年頃に教育制度の大規模な改革が施行され、教育理念も教育環境も激変する中で成長しました。しかし、このような状況でも、先生方は私達に対して変わることなく、各自の個性を認めて育てて下さいました。



昭和26年3月、私達は、揃って思い出深い学び舎と桜並木にわかれを告げ、新たな道を出立したのでした。

## 7. エピローグ 時代を超えて今に生きるもの

(注：ここで西原健子氏の作文の朗読がありました。紙面の都合上、割愛させていただきました。作文の全文は『昭和を生きて』に掲載されております)

宮崎氏◇今日のお話しを通してお伝えしたいことは、環境の激変の中にあっても人が持ち続けるしなやかさ、遅しさ、明るさ、何事にもたじろがず、真正面を向いて歩く誇りです。私は、西原さんの作文を読んで、女子学習院入学の際の「オヤクソク」を思い出しました。紙に書いたオヤクソクの文言は、戦後目にしなくなりましたが、西原さんのように戦後入学した級友達にも、生きる指針としてこの精神の伝統は共有されています。

西尾氏◇この学校に古くから護られて来た倫理観は、知らず知らずのうちに先輩から後輩へ受け継がれ、その時代時代に生きるもの達に、常に新しい息吹を、活力の源を与えて下さいました。この「今」を生きる力こそ時代を超えていく教育の力であり、学習院に今後も伝えられていくものと思っております。

### 第69回史料館講座

日時：平成24年11月24日(土) 14時～16時

会場：学習院創立百周年記念会館 正堂

講師：代表 西尾瑛子氏(公益社団法人国際日本語普及協会会長)

倉本玲子氏、武井絢子氏、宮崎茂子氏、西原健子氏

〔構成担当〕須山名保子氏

学習院女子部卒 常磐会第63回(思苑会)「昭和を生きて」編集委員

写真協力：学習院アーカイブズ、学習院募金部

講演録編集：学習院大学史料館 学芸員 吉廣さやか

### 新刊のご案内

#### 学習院大学史料館編集

## 『絵葉書で読み解く大正時代』

「大正の記憶 絵葉書の時代」展の貴重な展示資料を基に、200点以上の美しい図版・絵葉書から大正時代の諸様相を読み解く新しい「大正時代史」の本ができあがりました。全国の書店にて好評発売中!



彩流社より2012年12月刊  
A5版フルカラー 168頁  
定価 2800円(税別)

### ミュージアム・レター第21号

2013年2月12日発行

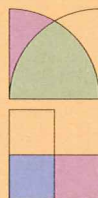
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(3986)0221

内線 6569

FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History  
学習院大学史料館



● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>